



大在地域

まちづくりビジョン



大在地域ビジョン会議

平成30年7月

— 目 次 —

大在地域まちづくりビジョンの概要

- 1 地域まちづくりビジョンについて・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- 2 大在地域の将来像及び市長への提言・・・・・・・・・・・・ P3

第1章 地域の特性

- 1 地理的特性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P4
- 2 地域の歩み・地域資源・・・・・・・・・・・・ P4-7

第2章 地域の現状

- 1 土地利用の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- 2 社会・経済・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
- 3 地域内の公共施設等・・・・・・・・ P10-13
- 4 市民との協働によるまちづくりの取組・・・・・・・・ P14-17

第3章 人口推移と将来推計

- 1 大分市の人口推移と将来推計・・・・・・・・ P18
- 2 大在地域の人口推移と将来推計・・・・・・・・ P19-20
- 3 大分市の人口ビジョン・・・・・・・・ P21

第4章 地域の課題分析

- 1 SWOT 分析による地域課題の分析・・・・・・・・ P22-23
- 2 大在地域の整理図・・・・・・・・ P24
- 3 地域の将来に向けた課題の設定・・・・・・・・ P25

第5章 地域のあるべき姿(将来像)

- 1 地域の将来に向けて・・・・・・・・ P26-27
- 2 大在地域の将来像(コンセプト)・・・・・・・・ P28

第6章 将来像の実現に向けた取組

- 1 これからのまちづくりに向けた市長への提言・・・・・・・・ P29
- 2 提言に基づく事業提案の一覧・・・・・・・・ P30-33
- 3 提案事業の整理図(地図)・・・・・・・・ P34-35

資料編

- 1 策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・ P36-37
- 2 大在地域ビジョン会議委員、顧問及び事務局名簿・・・・・・・・ P38
- 3 大分市地域ビジョン会議設置要綱・・・・・・・・ P39-41

大在地域まちづくりビジョンの概要

1 地域まちづくりビジョンについて

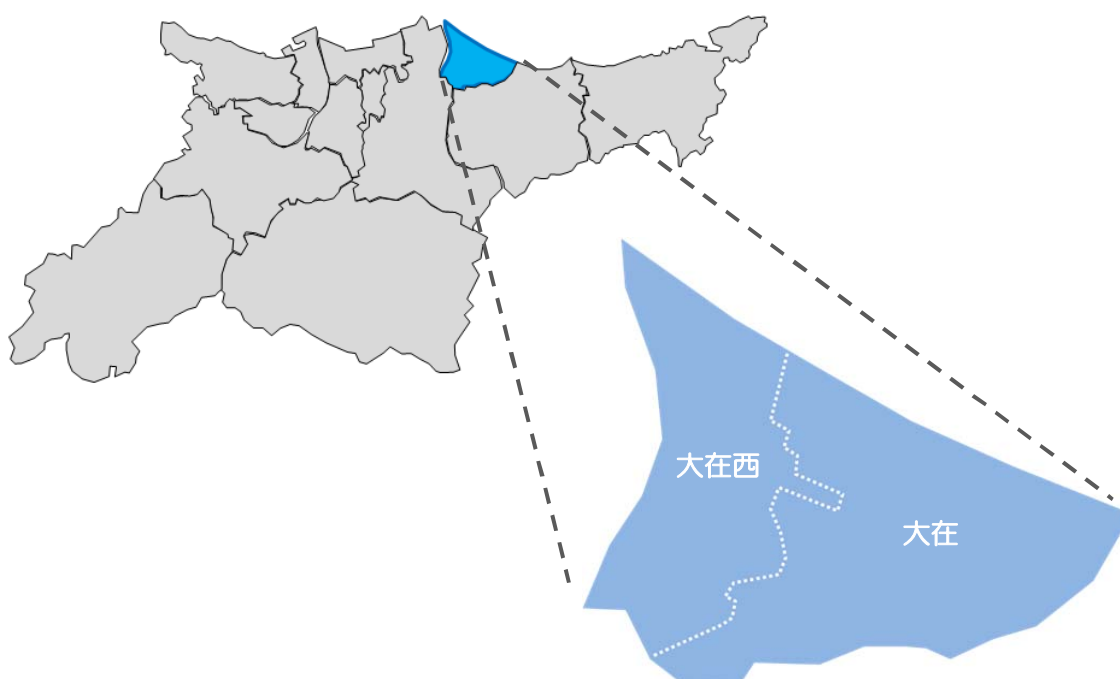
わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、今後、人口が減少に転じることが予測され、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の実情や住民の意向等を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えております。

このような状況を受け、地域の活力維持・増進を図ることを目的に、市内13地域において、各地域の代表者で構成する「地域ビジョン会議」を平成29年5月に設置し、それぞれの地域の現状と課題などを議論し、地域の将来像として「地域まちづくりビジョン」を平成30年7月に策定しました。

本ビジョンでは、大在地域ビジョン会議で取りまとめました「大在地域まちづくりビジョン」について、大分市長に提言いたします。

大分中央地域	大分西部地域	大分南部地域
南大分地域	大分東部地域	鶴崎地域
大南地域	植田地域	大在地域
坂ノ市地域	佐賀関地域	野津原地域
明野地域		

*大在地域まちづくりビジョンは、大在西、大在校区の2校区を対象としています。



2 大在地域の将来像及び市長への提言

地域のさらなる発展に向けた魅力向上と課題解決のため、地域のあるべき姿として下記の将来像を掲げ、これからのまちづくりに重要と考える取組について提言します。

大在地域の将来像

魅力あるみんなでつくる元気なまち～Machi～

将来像への思い

大在地域は、生活環境が整い、安全・安心な魅力のあるまちであり、またスポーツや文化など様々な分野で、高齢者から子どもまで多世代において地域住民が一体となり、元気な大在のまちをつくっていかうという思いで、将来像を決定しました。

市長への提言

提言1 教育を核としたまちづくり（教育・福祉）

子育て世代や隣接する日本文理大学の学生が多く居住していることで、若年層の割合が高く、地域の活力となっています。この若年層を取り込んだ各種事業を構築することで、大在の元気をより推進するまちづくりが必要です。

また、将来の人口増を見据えた教育基盤の充実や子どもと高齢者の居場所づくりなど、安全・安心な環境・仕組みづくりが求められます。

提言2 人を呼び込むふるさとづくり（産業・福祉）

本地域は、今後も人口の増加が見込まれ、若年層の割合も高い地域ではあるが、同時に地域コミュニティの希薄化が進行しています。

新旧の住民がより住みやすい環境整備のため、地域行事による住民交流の促進や企業誘致、中小企業の成長促進等による生活基盤の確立を行うとともに、大在地域の魅力を向上、発信していく必要があります。

提言3 防災機能の向上と自然環境との共生（防災・都市基盤・環境）

山、川、海に面した地域であることから、地域全体で取り組む防災対策や防災機能を持った公共施設整備等、ソフト・ハード両面において防災機能の強化、推進を図る必要があります。

一方で、その自然特性を生かす事業を推進し、新たな地域資源を創出することで、地域内外の交流を促進するまちづくりを進めていくことを望みます。

第1章 地域の特性

1 地理的特性

大在地域は、大分市の東部、大野川右岸下流域に位置しており、西は鶴崎地域、南と東は坂ノ市地域に接しています。

また、日豊本線が東西に横断しており、線路の北側が海拔の低い平地、南側が比較的高い丘陵地となっており、海岸部は埋立地による臨海工業地帯を形成し、九州電力新大分発電所や、大分港大在コンテナターミナルなどが立地しています。

2 地域の歩み・地域資源

(1) 地域の歩み

明治22年に志村、角子原、北村が合併し西大在村へ、横田、政所、浜、竹下、城原村が合併し東大在村となり、このとき鎌倉時代から続いた地域の呼び名である「大佐井」を現在の「大在」に改めました。その後、明治40年に東西大在村が合併し、大在村が誕生しました。

昭和38年の市町村合併により北海部郡大在村から大分市の大在地域として、新たなスタートを切ることとなりました。

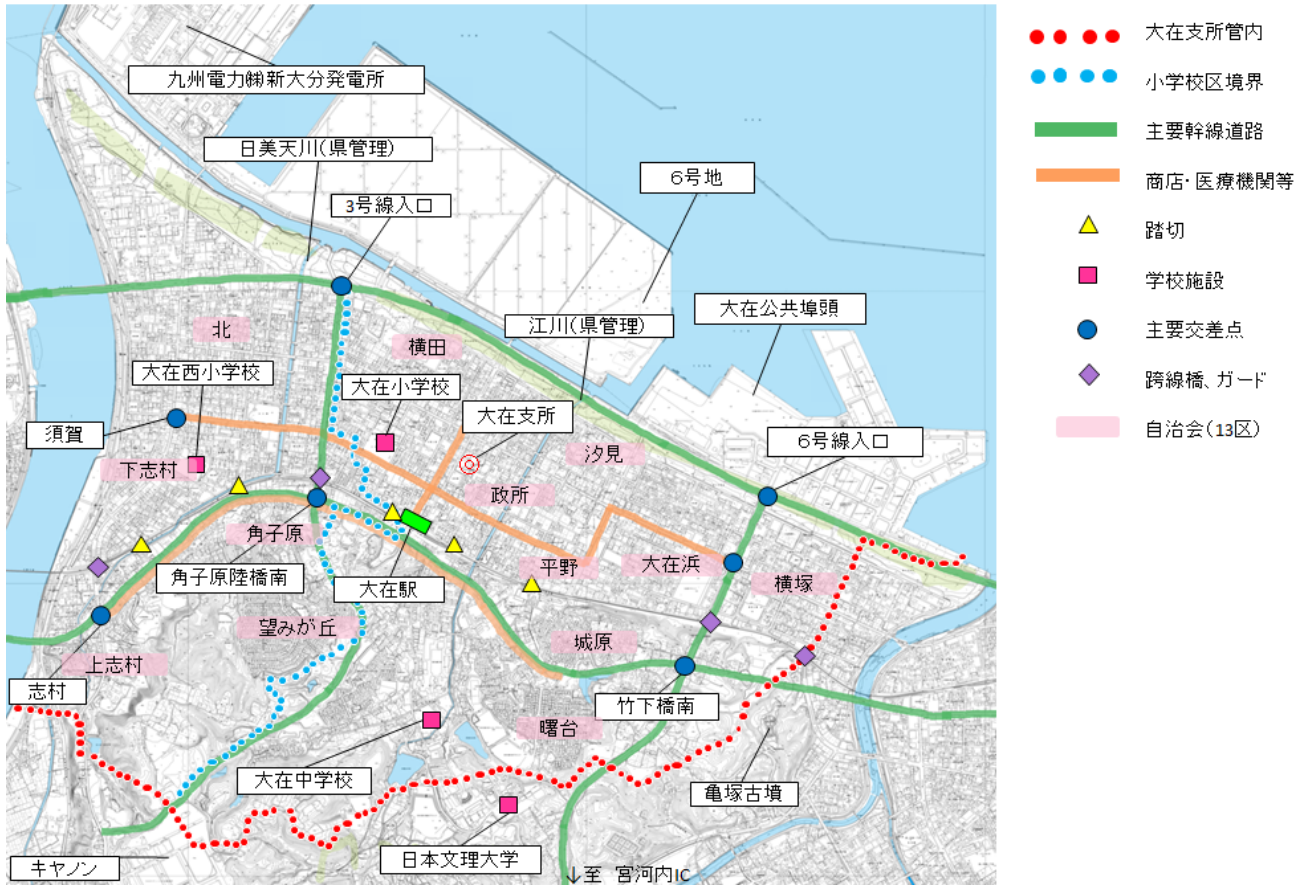
当時は、農・漁村の原風景が広がる中で人情味にあふれ世代間交流が活発に行われ、結束と団結力のある土地柄で、その気風は今でも継承されており、「大在はひとつ」という意識の下に地域のまちづくりが推進されています。

大在地域が現在の姿になった大きな要因は、昭和39年の新産業都市指定による臨海部の埋め立てと、昭和49年から平成10年にかけて実施した土地区画整理事業による住環境の整備や丘陵地に造成された団地開発があげられます。

また、城原に隣接した丘陵地に、日本文理大学が立地しており、多くの学生が大在地域に居住し、学園都市的な要素も見られます。

住環境の向上や、日本文理大学が隣接していることなどを背景に、アパートなどの集合住宅が多く、地域内の住民の年齢構成も、市内の他地域と比べ若い住民が多く、大分市人口ビジョンでも将来人口の増加が見込まれています。

図一 大在地域位置図



【埋立造成前の航空写真】



【現在の埋立造成地】

(2) 地域資源

大在地域は丘陵地、平地、埋立造成地により形成されており、平地、丘陵地にはそれぞれ文化遺産が散在しています。また、河川敷、公園の桜や夜景スポット等の景観資源を有しています。

文化遺産については、明治6年に大在の様々な地域で村社の天満社、神社が建立され、現在も多数の地域住民が参加し、山車、神輿、カネ山でめぐるお祭り等が催され、地域に親しまれています。

この文化遺産によって形成された「これまで」の大在のつながりと「今」と「将来」の大在のつながりを映す催しである「おおざいワッショイ」や「大在納涼盆踊り」などが開催されており、地域のつながりを大切にする風土は色濃く残っています。



■住吉神社

西暦580年佐尉郷総領主として鎮座した大在地域の由緒ある神社。JR(日豊本線)大在駅北側に位置しており、埋立造成地が形成される前は、美しい浜辺を一望できる場所でした。また、春と秋にそれぞれ大祭が開催されています。



■おおざいワッショイ

大在地域主催の「大在地区ふるさとまつり」と、地区公民館主催の「生涯学習まつり」が統合され、地域住民の運営により開催されています。大在駅前通りをメイン会場に年々規模が拡大され、現在では大在地域最大のイベントとなっています。



■大在納涼盆踊り

地域の伝統文化を継承する催しとして開催回数も40回を超え、地域住民相互の親睦と交流が図られ、夏の風物詩として定着しています。

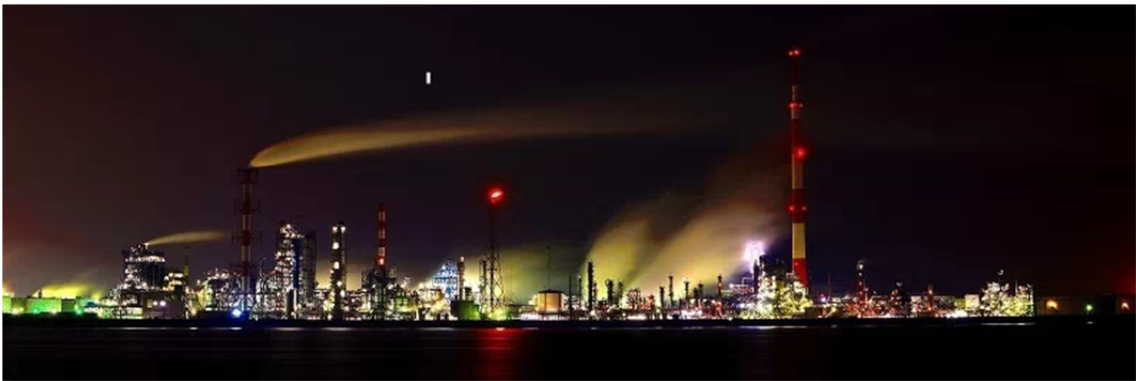


■大在ロゼオアーチ

大在商工青年部の事業の一つであるロゼオアーチ。桜並木をライトアップすることで「桃色の」アーチ橋を見ることができます。ロゼオアーチの対象となる道路を歩行者天国にすることで、より観賞しやすい環境づくりにも取り組んでいます。

■大在ディズニー（青崎）

青崎から見られる工場群の夜景。見る場所によって隠れミッキーがいる、ディズニーパレードのイルミネーションのようなど、名前の由来は諸説ありますが、有名な夜景スポットとして親しまれています。



第2章 地域の現状

1 土地利用の状況

海岸部は臨海工業地帯として埋め立てられ、九州電力新大分発電所や大規模太陽光発電所、大分港大在コンテナターミナルなどが立地しています。

また、日豊本線北側の平地は、これまでに土地区画整理事業が行われており、住宅地が広がっています。南側は、国道197号沿いに多くの商業施設が林立し、丘陵地には住宅団地も造成されています。

海岸線沿いの緑地帯と丘陵地の山林は貴重な緑を提供し、地域住民の憩いの場となっています。

図一 大分市都市計画マスタープランにおける大在地域の現状及び課題図



2 社会・経済

本地域は、大在土地区画整理事業が昭和49年に着手されたことを皮切りに、地域の人口が右肩上がりに増加しています。平成10年に土地区画整理事業が完了した後も周辺地域では平成11年に宮河内インターチェンジ、平成14年に大分東バイパスの供用開始、さらに平成22年に大野川大橋有料道路が無料化されるなど、本地域への交通アクセスが良好となったことから交通量も増加し、幹線道路沿いには各種商店・飲食店等が林立するようになりました。現在も断続的に商業施設が進出しており、加えて国立病院機構大分医療センターを始め専門病院や福祉施設等も多く開設されたことから、住民の生活環境は大幅に向上しました。

また、日本文理大学が隣接しており、本地域が多くの学生の居住地として選択されていることから、若年層人口が多く、加えて、一般世帯向けアパートも多く建設され、子育て世帯も増加しています。しかし、地域としてこれらの若い力を活用できていないという課題を抱えているという反面もあります。

臨海部の埋立造成地については大分港大在コンテナターミナルに運輸企業が多く立地し物流拠点を形成し、また南日本造船や九州電力新大分発電所など多くの企業が集約されています。

このように、時代の変遷とともに現在では農業、水産業などの第一次産業を生業とする世帯は大幅に減少し、勤労者世帯が多く占める社会構造となっています。本地域は今後も人口の増加が見込まれることから、人口が減少に転じないような地域の魅力を創出・活用したまちづくりを進める必要があります。



3 地域内の公共施設等

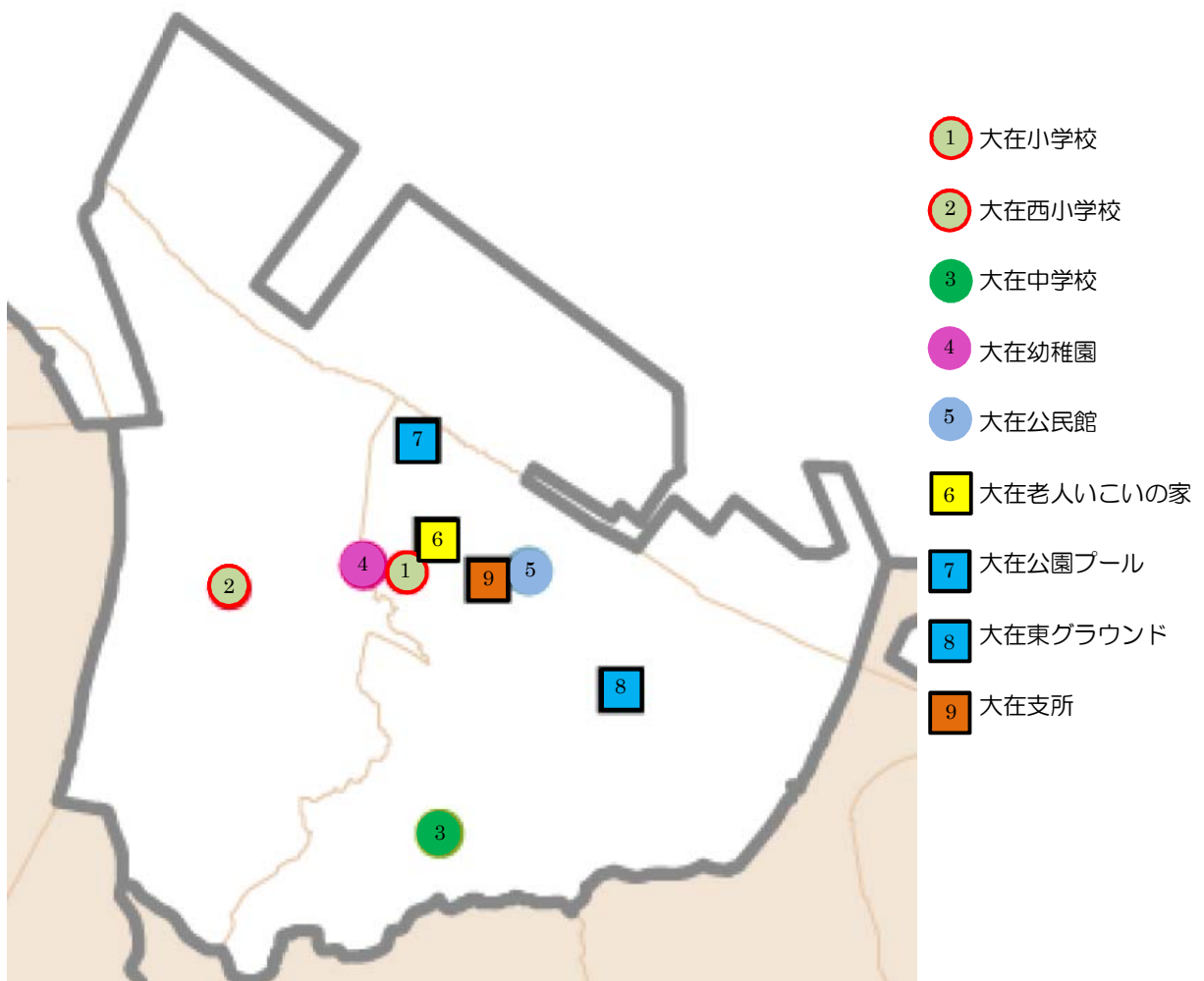
(1) 公共施設

東九州の物流拠点となる大分港大在コンテナターミナルが立地し、また隣接地域に東九州自動車道が整備されているなど交通の利便性が高くなっています。

また、土地区画整理事業の実施に伴い人口が急増した地域であり、児童・生徒数の増加に伴って、学校などの教育施設の整備も進められているほか、バリアフリー法「基本方針」の改正により、現在JR大在駅のバリアフリー化について検討が行われています。

そして、臨海産業道路の南側には、工業地帯と住宅地の緩衝地として約4kmにわたり緩衝緑地帯が整備され、区画整理区域内は多くの公園がバランス良く配置されています。特に、大在公園にはテニスコート、多目的グラウンド、さらに夏の期間中には無料で入場できる公設の市民プールが整備されています。

図一 公共施設配置図



(2) 指定避難所・福祉避難所・津波避難ビル

大分市では、地震、豪雨、大規模火災などの事態に備え、避難所を指定しています。また、在宅寝たきり高齢者や重度の障がい者の方などで、一般の指定避難所では避難生活を送ることが困難な場合に利用する福祉避難所も併せて指定しています。さらに、津波警報等が発令された際に、津波到達予測時間内に高台まで辿り着くことが困難な場合の緊急的・一時的な避難施設として津波避難ビルも指定しています。

同地域には指定避難所が5箇所、福祉避難所が1箇所、津波避難ビルが52箇所指定されています。

加えて、大在地域には13の自主防災組織があり、地域住民相互の防災活動に取り組んでいます。

図一地域の指定避難所
福祉避難所



表一地域の指定避難所一覧

校区	施設名	避難可能人員	
		一時	避難所
大在西	①大在西小学校	1,215	607
大在	②大在小学校	886	443
大在	③大在中学校	981	490
大在	④大在公民館	798	399
大在	⑤大在浜公民館	100	50

表一地域の福祉避難所一覧

校区	施設名
大在西	①ケアマンションはなぞの

指定数:23箇所

表一大在西校区の津波避難ビル指定状況一覧

校区	名称	所在地(住所)	階数	海拔(TP.m)
大在西	市営北住宅	大在北三丁目11番	5階	2.4
大在西	M&T	大在北四丁目8番8号	3階	3.2
大在西	ユニティ21	大在北四丁目8番31号	3階	3.7
大在西	県営志村住宅	大在北三丁目2番	5階	2.5
大在西	エミネンスⅢ	大在北一丁目16番31号	3階	4.5
大在西	フレクション大分大在	大在北三丁目10番11号	5階	2.5
大在西	アクアステージ大在	大在北三丁目1番21号	5階	2.6
大在西	カーサー大在北	大在北一丁目8番50号	3階	4.3
大在西	大在西小学校	角子原一丁目4番41号	3階	4.7
大在西	シークハイツ	庄境1番44号	4階	7.5
大在西	Grand Maison	花江川14番19号	4階	5.0
大在西	ケアマンションはなぞの	花江川4番28号	6階	4.1
大在西	エレガンス宮本Ⅲ	花江川12番28号	4階	4.1
大在西	メゾン逢春	大在北1丁目3番17号	3階	3.7
大在西	逢春コーポⅡ、Ⅲ	大在北一丁目7番35号	3階	4.3
大在西	大分リハビリテーション病院	大字志村765番地	3階	21.0
大在西	サニーパレス北横田	大在北二丁目1番27号	4階	4.8
大在西	ダンハイツ大在	大在北四丁目8番27号	3階	3.8
大在西	フラワーレジデンス	大在北三丁目10番26号	4階	2.8
大在西	スカイコート21	大在北三丁目9番13号	4階	2.8
大在西	アムール大在	大在北一丁目16番37号	3階	4.9
大在西	NEXTAGE	花江川12番26号	4階	3.8
大在西	有料老人ホーム 椋の樹	大字角子原字花田 870 番地	3階	5.4

指定数:29箇所

表一大在校区の津波避難ビル指定状況一覧

校区	名称	所在地(住所)	階数	海拔(TP.m)
大在	市営浜住宅	汐見一丁目6番	4階	3.9
大在	市営村田住宅	大字政所2108番地の2	4階	8.1
大在	メゾン芦刈	大在中央一丁目12番1号	3階	6.1
大在	メゾン芦刈Ⅱ	大在中央一丁目12番4号	5階	5.7
大在	パールピアス	大在中央二丁目1番18号	4階	6.7
大在	萱島ビル	大在中央二丁目1番3号	3階	6.2
大在	ベルエール大在	政所一丁目4番47号	12階	5.3
大在	ビーハイヴⅠ	大字政所2163番地の1	3階	8.2
大在	オクタヴィアL	大在中央二丁目2番3号	9階	5.7
大在	クリアパーク	大在中央二丁目5番27号	5階	7.5
大在	ブラッサムK	政所一丁目1番16号	4階	5.0
大在	セフィーロス大在	大在中央二丁目4番11号	5階	6.2
大在	県営大在住宅	横田一丁目11番、12番	4階	4.1
大在	日本通商ビル	大字政所2203番地	5階	8.7
大在	インテリジェントコーポⅡA	政所二丁目3番13号	4階	3.9
大在	インテリジェントコーポⅡB	政所二丁目3番15号	4階	3.9
大在	ルネ大在	政所二丁目2番18号	8階	3.6
大在	大在コーポⅢ	大在中央一丁目14番3号	8階	6.5
大在	シャトー・ラ・メールⅡ	汐見一丁目3番31号	5階	5.0
大在	シャトー・ラ・メール	汐見一丁目2番31号	5階	5.4
大在	ウイングダム姫野 A棟	竹下一丁目9番50号	3階	6.6
大在	ウイングダム姫野 B棟	竹下一丁目9番49号	3階	6.7
大在	ウイングダムはさま	竹下一丁目5番13号	3階	6.7
大在	ウイングダム竹下	竹下二丁目6番8号	3階	6.4
大在	サニーコーポアゼツ	竹下一丁目2番24号	4階	7.8
大在	ユーマーソルフレイア	竹下一丁目4番23号	3階	6.5
大在	ヴィラ安東	竹下二丁目8番27号	3階	6.7
大在	大在小学校	横田一丁目15番58号	4階	5.5
大在	大在中学校	大字政所2602-12	4階	15.3

組織数:13組織

表一大在地域の自主防災組織一覧

校区	組織名	校区	組織名
大在西	上志村自治区防災会	大在	横田防災会
大在西	下志村防災会	大在	政所区防災会
大在西	角子原自治区防災会	大在	大在浜自治区防災会
大在西	望みが丘自治区防災会	大在	汐見自治区防災会
大在西	北区防災会	大在	城原自治区防災会
		大在	曙台自主防災防犯会
		大在	平野自治区防災会
		大在	横塚防災会

4 市民との協働によるまちづくりの取組

(1) まちづくり活性化事業の展開

地域コミュニティの再生を目指し、大在地域に居住する住民の皆さんに、地域課題の解決や地域を活性化するための事業を考案して頂き、その事業を住民と行政が協働で取り組み、課題の解決を図るとともに新たな魅力創出につなげています。

大在地域テーマ 「大在コスモスふれあい広場」

1) コスモス育成、コスモスまつり

大在の自然財産である大野川の特性を生かし、河川敷に地域住民が集い、協働でコスモスを植え育て、開花にあわせてコスモスまつりを開催し、楽しみながら住民相互の親睦と融和、世代間交流、連帯感の醸成を図っています。



2) ホタルの舞うまちづくり

大在を流れる江川の自然環境の向上のために、地域住民と共に清掃活動、水質浄化活動やホタルの生息調査を行い、最終的に多くのホタルが舞う町になることを目的としています。教育現場においても平成23年より大在小学校の体験学習として取り上げられています。



3) 大在地域情報発信事業

地域との協働により作成した「大在今昔マップ」で大在地区の歴史や史跡等を地域住民に紹介することにより、ふるさとを再認識して新たな大在の魅力づくりを目指しています。また、地区内行事等の地域情報を発信することにより地域住民の積極的な参加を促しています。



【大在今昔マップ】

(2) ご近所の底力再生事業

自治会内の課題解決やふれあいの場づくり等地域コミュニティの醸成を目的に、以下の事業に自治会が自主的・積極的に取り組んでいます。

事業名	取組	補助対象経費具体例
地域の安全を守る事業	<ul style="list-style-type: none"> 防犯、見守りパトロール 防災訓練、炊き出し訓練 	ベスト、帽子 かまど、炊き出し用食材
青少年の健全育成に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> 自治会主催の子ども工作教室 子ども音楽クラブ活動 	工作材料、文具 太鼓バチ、楽器
地域福祉の向上に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者とのふれあい交流会 	高齢者用座椅子、テーブル
世代間の交流促進に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> 三世代交流餅つき大会 三世代交流グラウンドゴルフ 	臼、杵、餅米、あんこ グラウンドゴルフ用品
地域の環境美化又は保全に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> 地区内環境整備事業 花いっぱい運動 	草刈り機、替刃 花の苗、土、プランター
地域の活力の向上に関する事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化自治会まつり 	自治会名入りハッピー、マイク等音響機器

(3) 住民主体のまちづくり

大在地域の文化・スポーツ・歴史の継承や地域活性化、地域コミュニティの再生を醸成するために、地域の各種団体がさまざまな活動を行い、まちづくりを進めています。

1) 大在地区体育協会

スポーツを振興し、地域住民の体力の向上とスポーツ精神の養成を通じて、心身の健全な発達を目的とした事業を展開し、中でも「大在地区体育祭」は53回、「大在地区駅伝大会」は30回を超えるなど、体育のまち大在を体現し、大在地域の体力の向上と健康の増進に努めています。



2) 総合型地域スポーツクラブ (OZA | 元気クラブ)

年齢、興味関心、技術技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する大在地域の総合型地域スポーツクラブであり、生涯にわたってスポーツが楽しめる環境づくりに取り組んでいます。



3) 海部のまつり振興会

亀塚古墳を舞台に古代から畿内と深いつながりのあった「海部の民」に思いを馳せ、海に感謝し、古墳時代の儀式を再現する催しを、東部地域の振興のために開催しています。



4) 大在地区民生委員・児童委員連絡協議会

地域に暮らす身近な相談相手として、見守り、相談支援等の地道な活動はもとより、「三世代ふれあい交流会」、「小学生一日民生委員」、「ちびっこサロン おおざい」等の事業を展開し、大在地域の福祉の増進に努めています。



5) 大在地区文化財研究会

「大在を学び理解して、誇れるまちづくりに貢献しよう」をスローガンに、郷土史の研究、普及を図ることで、大在地域における歴史文化の継承をはじめ、大在に対する理解を深めてもらう活動等に取り組んでいます。



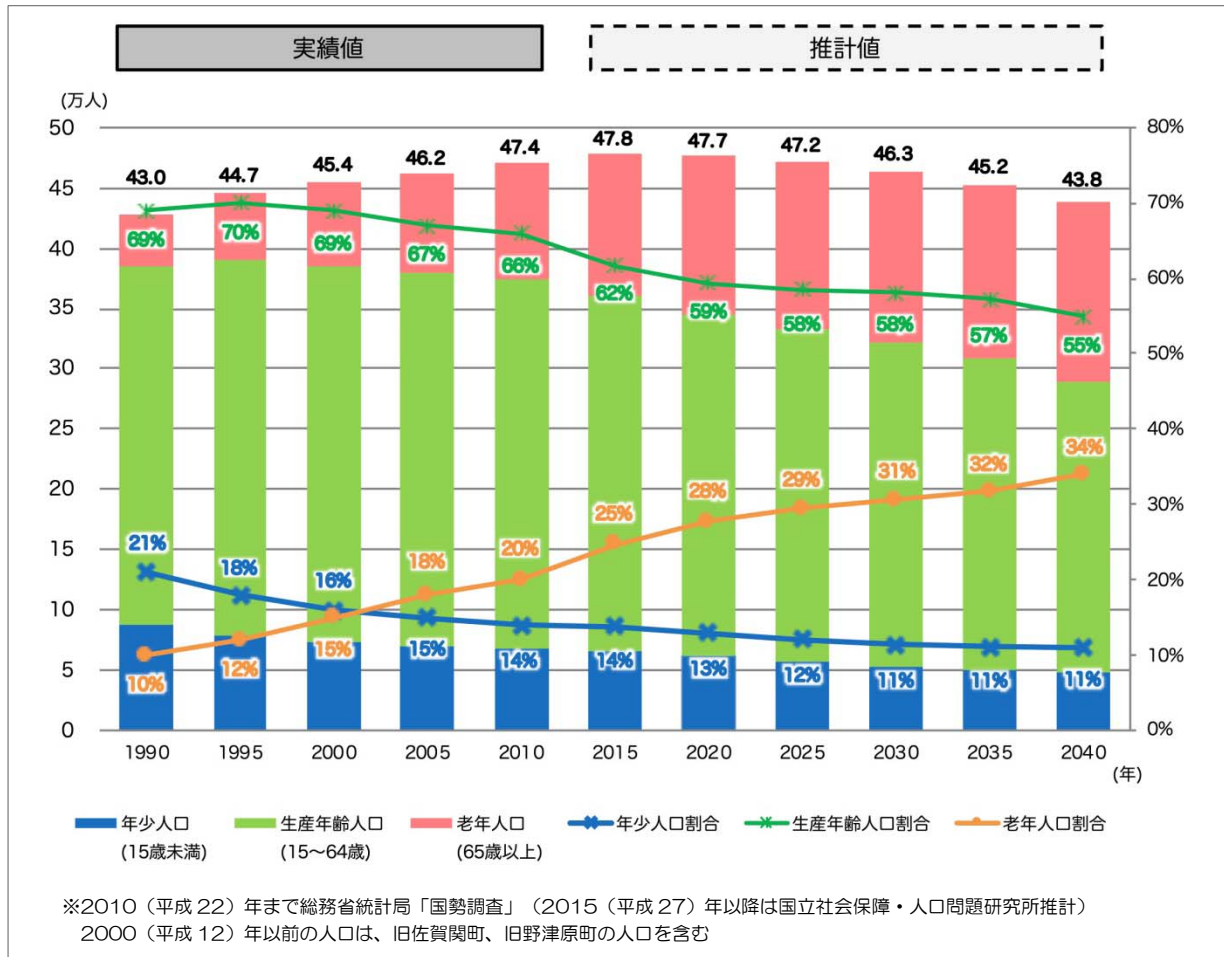
第3章 人口推移と将来推計

1 大分市の人口推移と将来推計

(1) 総人口・年齢3区分別人口の推計

2010（平成22）年国勢調査を基本に、2013（平成25）年3月発表の国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の数値を用い、将来人口を推計しています。

また、社人研の推計によると、このままの状況で人口が推移していけば、2010（平成22）年から2040（平成52）年までの30年間で、本市の総人口は約3.6万人、生産年齢人口（15歳～64歳）は約6.5万人減少すると予測されています。一方、老年人口（65歳以上）は約5.3万人増加し、高齢化率は34%に達すると予測されています。

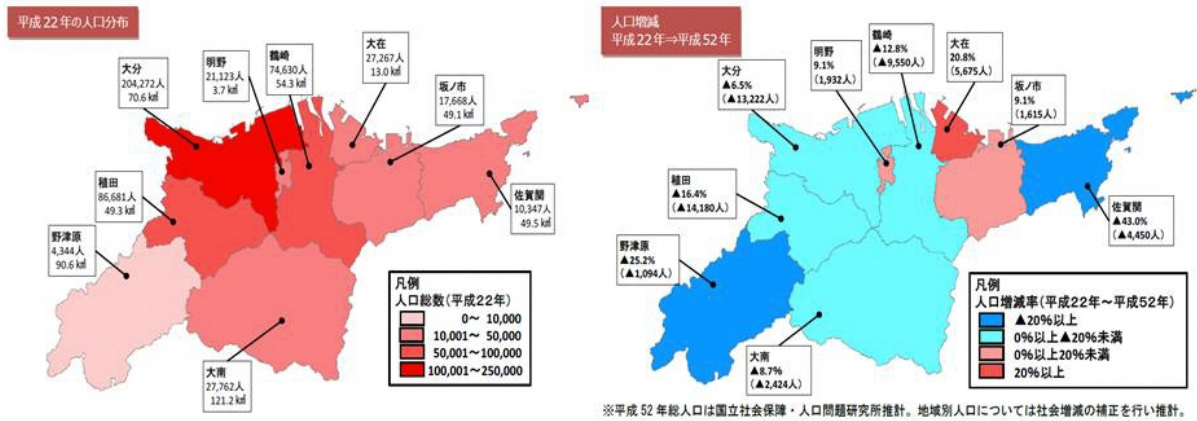


- 本市の総人口は平成27年頃をピークに緩やかに減少に向かう見込みです。
- 30年間(平成22年～平成52年)で総人口は約3.6万人、生産年齢人口は約6.5万人減少。
- 老年人口は約5.3万人増加、人口割合は20%から34%へ14ポイント上昇。

2 大在地域の人口推移と将来推計

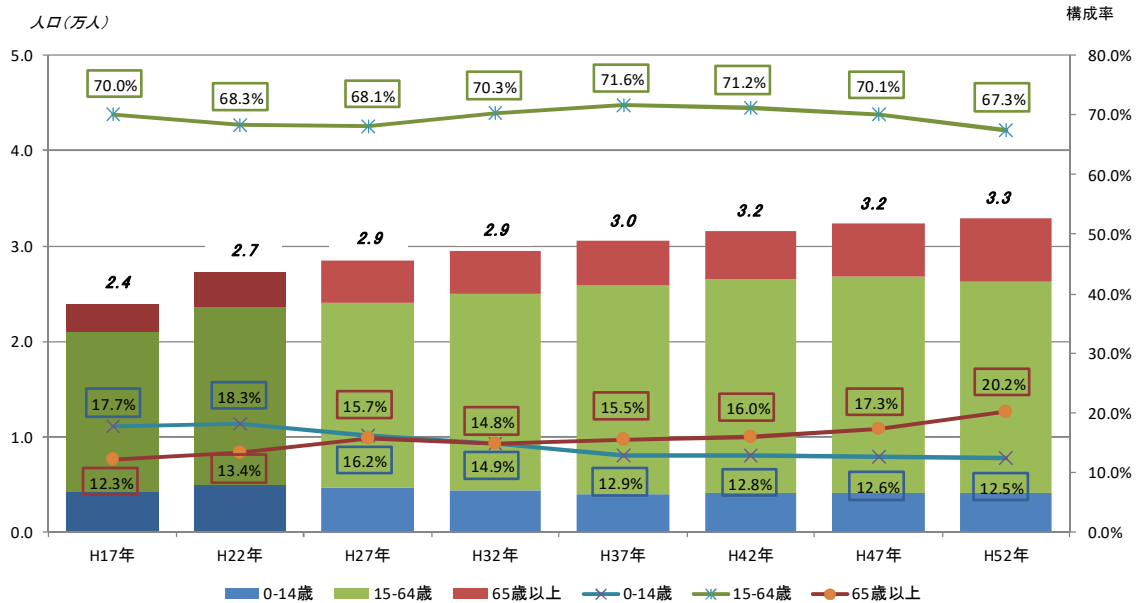
(1) 大分市の人口動向（人口推移）

30年間(平成22年～平成52年)の地域別(支所管轄を基本とした9地区)人口推計



- 本市の総人口の減少に伴い、多くの地域において大きな人口増加は見込めない状況です。
- 佐賀関地区(△4,450人 △43.0%)、野津原地区(△1,094人 △25.2%)においては、地域人口に対する減少率が特に大きくなっています。
- 同じ市内でも地区ごとに年齢構成や人口動態が大きく異なっているため、課題の抽出や対策について、それぞれの地区ごとに検討する必要があります。

(2) 大在地域の人口推移



○大在地域の人口は、市の総人口の約 5.7%を占めています。30年後は地域内の人口が約 20.8%増加する見込みとなっています。

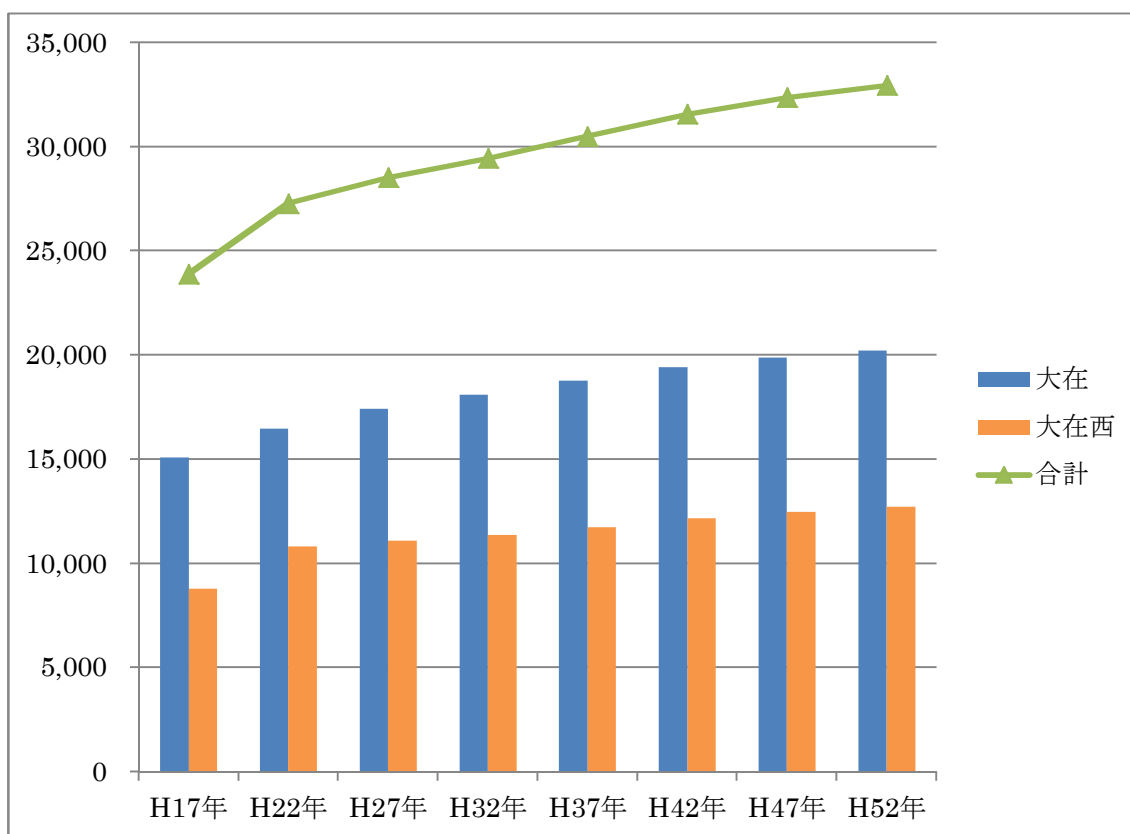
○区画整理により造成された住宅地が多く、人口構成は年少人口・生産年齢人口ともに本市全体より高く、高齢人口は低くなっているため、その後の人口も増加傾向で推移することが見込まれています。

(3) 校区別の人口推移（大在地域）

校区別人口推移（表）

校区	H17年	H22年	H27年	H32年	H37年	H42年	H47年	H52年
大在	15,096	16,473	17,417	18,088	18,760	19,409	19,871	20,231
大在西	8,798	10,803	11,097	11,358	11,739	12,159	12,491	12,711
合計	23,894	27,276	28,514	29,446	30,499	31,568	32,362	32,942

校区別人口推移（グラフ）



○校区別の人口推移については、大在校区、大在西校区ともに現状より人口が増加する傾向にあります。

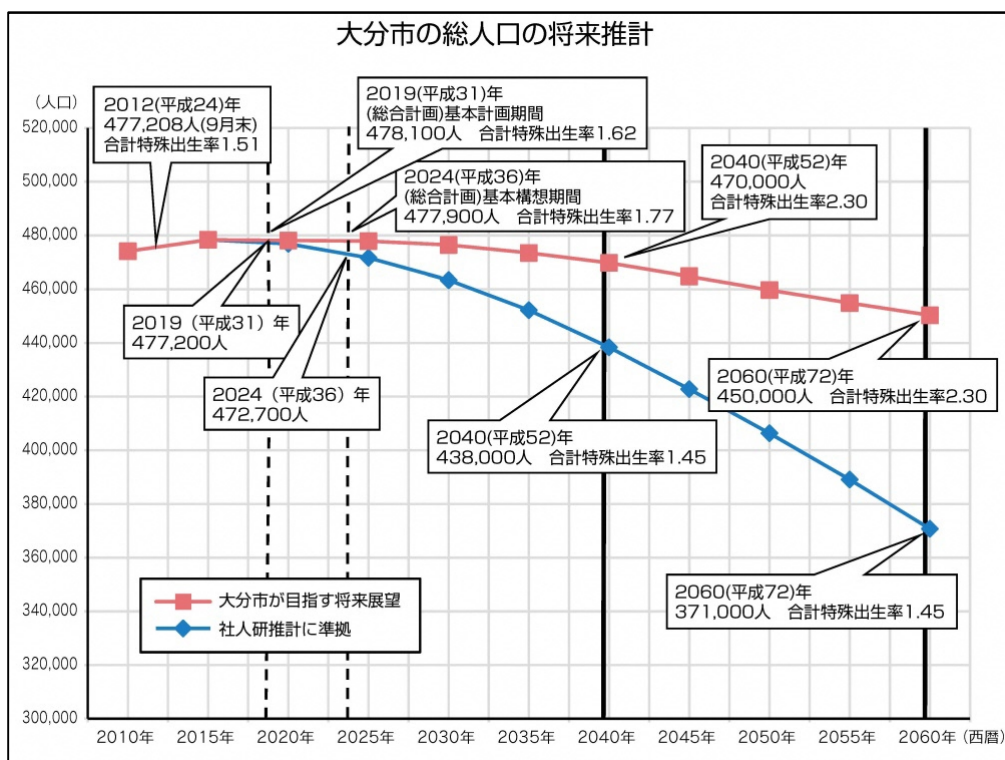
3 大分市の人口ビジョン

本市においては、国や大分県の将来展望を勘案するなか、県都大分市としての責任を果たすため、自然増については、結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現に向けた取組のさらなる充実を図ることにより、2030（平成42）年までに合計特殊出生率を2.0程度まで高め、2040（平成52）年には2.3程度まで高めることとします。

また、社会増については、今後も東京圏を中心とした大都市への人口流出が懸念されることから、大分県全体を鑑みるなか、大分県外から、特に東京圏を中心とした大都市からの転入者を増やすことを目指していきます。

このように自然増対策と社会増対策に取り組むことにより、人口減少に歯止めがかかり、2060（平成72）年の本市の人口は、45.0万人程度となります。

大分市が目指す将来展望 2060（平成72）年 人口45万人程度



第4章 地域の課題分析

1 SWOT 分析による地域課題の分析

地域の分析では、大在地域の課題を改めて整理するため、グループワーク形式での意見交換や、SWOT 分析の手法を用いて、現状分析を行いました。

以下に示す SWOT 図は、委員間において整理されたもの。

プラス要因	
内部環境	<p>①若い世代が多い地域特性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の平均年齢が低い <p>②恵まれた子育て環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加が見込まれる ・同世代の母親が多く、相談しやすい環境 <p>③地域に根付く福祉の精神</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、子ども達を大切にす意識と行動の精神がある ・地域子ども見守り隊の充実を図る <p>④活発な地域コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区住民向けの民間広報誌が発行されている ・自治区単位での各種団体の活動が活発 <p>⑤日本文理大学立地の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本文理大学が近くにあり、大学見学にも活用出来る ・大学の存在による経済効果と発信力 <p>⑥快適な住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道 197 号を境に北部は大規模区画整理で快適な住環境にある。 ・商業施設や医療機関が多く、生活しやすい ・公園が多く、憩いの場になる ・桜がきれい ・水のある環境（川、海、堤） <p>⑦都市基盤の整備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅の乗降客数が県下で3番目に多く、利用時間帯も広い ・水深のある良港であり、大型船の入港が多い ・道路網が整備され、高速道も利用しやすい <p>⑧恵まれた緑地帯の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 kmにわたる緩衝緑地帯は大在の宝であり活用すべき！ <p>⑨体験型観光施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造船所などの体験型観光施設がある
外部環境	<p>①人材づくりと地域・世代間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街づくりのための人材づくり ・街で暮らす人、営む人の融合 <p>②政策や施策、施設整備等に係る高齢者福祉の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進行で近所での助け合い、福祉センターの充実・高齢者が健康づくりをする町 ・高齢者が大事にされる地区でありたい ・3世代が一緒に暮らす <p>③高齢者や子どもが活動できる施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前のにこいの場 公園施設の充実 子どもや高齢者のゆとり遊べる場所（大在公園） <p>④子どもの未来を開くための教育政策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健全育成 ・子どもにとってのふるさとづくり ・地域の未来を創る若者のための教育環境の充実 ・大学生を活用していない ・大きな中学校を建ててほしい。 <p>⑤スポーツ等施設整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが多いのでスポーツの出来る場所の充実、文化・スポーツ、福祉機能を備えた大型施設がほしい <p>⑥自然災害対策に備える各種施策の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1 江川南側の水門からの浸水対策、大野川の洪水、津波対策 ・第2 江川の水門対策 ・丹生川の津波対策・沖一文字の防波堤、高波、津波対策・治水、ため池の整備、集約 ・現実的なハザードマップの作成 <p>⑦安全安心のためのハード・ソフトの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要場所への防犯カメラの設置 ・交通事故をなくすためにすべきソフト、ハード面の整備 <p>⑧街のバリアフリーの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大在駅のバリアフリー化 ・大在地区全体をバリアフリーの観点から見直して計画的に整備すべき。 ・大在の快適性レベルを上げて高度化する。 <p>⑨バス機能の強化促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停の新設 ・大在駅南地区 197 号 定期バス路線が必要 <p>⑩サイクリングロードの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングの先進地となるように、自転車専用道路の整備・周囲 4 km四方のコンパクトな都市を周回できるサイクリングロードの整備が望まれる <p>⑪求められる大在の商業地活性化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大在オリジナルブランドがほしい ・駅前通りの盛り上がり・回遊できる街づくり ・観光に資する文化施設（美術館等）の整備 ・商業の活性化・アウトレットモールの誘致 <p>⑫6号地などの活用における企業誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6号地を大在の玄関口として発展させ、人口増加 ・企業を呼び込み(雇用) ・地区内に企業が少なく、働く場が少ない ・港と液化天然ガスから排出される熱をリンクする事で生まれる産業 <p>⑬各種環境対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松林の整備活用 ・角子原の山を自然公園として整備 ・JR大在駅に桜を植栽し町の活力を創造

S
強み

O
機会

※SWOT 分析

目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人のプロジェクトなどにおいて、外部環境や内部環境を強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) の4つのカテゴリーで要因分析し、事業環境変化に対応した経営資源の最適活用を図る経営戦略策定方法の一つ。

マイナス要因

①子育て環境の低下

- ・学校の先生と家庭との連絡、連帯がうすい
- ・アパートが多く、子育て世代が多い。共働きによる子育て時間の減少

②ユニバーサルデザインの欠如

- ・点字ブロックが少ない・歩道の段差が大きい
- ・障がいをもっている子どもたちの卒業後

③地域コミュニティの活性化を阻む各種要因

- ・向こう三軒両隣付き合いが弱い
- ・新旧住民参加型の実行委員会を設立の上、イベントを通じた地域コミュニティの再生
- ・共同住宅等の居住者（大在地区の1/3）が地域に溶け込んでいないため、地区行事の参加者が同じ顔ぶれ
- ・大学生の発信力を活用していない

④芸術・文化を楽しめる環境不足

- ・芸術について 屋内型のステージを備えた音楽公会堂の施設が無い
- ・大在地域は色々な公園がたくさんあるが、将棋や囲碁などできる憩いの場がない

⑤避難場所の設置等危機管理の欠如

- ・津波の避難場所がない
- ・災害時の避難場所が人口の割に少ない
- ・横塚地区には津波に対して避難場所となる公共施設がない。

⑥経済基盤の欠如

- ・商店街がない・働く場所が非常に少ない
- ・大在オリジナルブランドが無い

⑦国道197号の緑化の低下

- ・国道197号街路樹が少ない 緑が必要

⑧公共交通体系及び施策の未整備

- ・公共の駐車場がない（駅周辺）
- ・国道197号の路線バスが少ない
- ・JR大在駅が小さく狭すぎる
- ・駅乗降客の地域循環公共交通がない
- ・プラットホームに雨対策の屋根がない

⑨教育環境の不足

- ・学校施設が不足、地区内の教育環境のアンバランス

W
弱みT
脅威

①求められる高齢化社会への対応

- ・平成40年度以降の急激な高齢化対策が必要
- ・大規模区画整理による街並みの整理がされていないため、いずれは高齢化社会の縮図となる恐れがある

②人口増加傾向を考慮した各種施策の検討

- ・若い世代の多さを活かすインフラ整備計画が見えない
- ・児童の人口増から、新小学校、中学校の配置等の再考。隣接地区の地理的条件を考慮し大在に再編すべき。
- ・自治区の世帯数が増大し、適正管理世帯数を大幅に超過している

③求められる自然災害対策

- ・津波によるメガソーラーの2次被害に懸念
- ・川4本に囲まれ津波のかけ上がりに弱い
- ・山、川、海があることで災害も多い
- ・歴史上の根拠となる古文書から見て、浸水に対する予想が過少である
- ・堤（ため池）崩壊の危険性

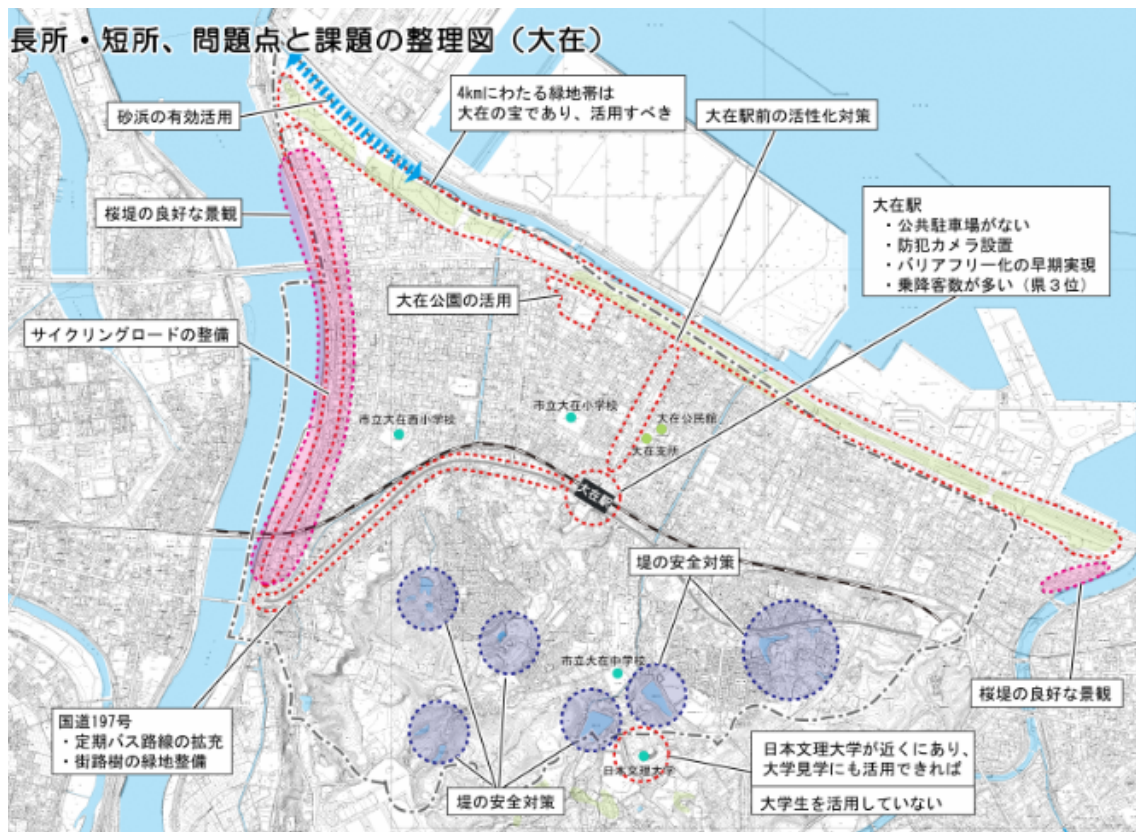
④海岸緑地の再整備

- ・海岸部の緑地景観整備が遅れている
- ・緩衝緑地帯は脅威にもなる

2 大在地域の整理図

委員全員から出された、地域の魅力や課題などの意見について、大在地域の地図で位置関係を整理すると以下のとおりになります。

地域ビジョン会議では、これらの意見を基に、将来像の整理や将来像実現に向けた具体的な取組みなどについて、議論・検討を行いました。



福祉

- ・ 少子高齢化の進展に伴う近所のたすけあいを推進
- ・ 共同住宅等の居住者における地区行事への参加を促進

教育

- ・ 学校施設が不足、教育環境のアンバランス
- ・ 隣接する日本文理大学を活用する必要がある

防災

- ・ 災害時の避難場所が地区の人口に比べ少ない
- ・ 堤（ため池）の崩壊に対する懸念

産業

- ・ 雇用環境が少ないことから企業誘致を行う必要性
- ・ 大在オリジナルブランドを検討

都市基盤

- ・ 道路網が整備され、高速道等へのアクセスが良好
- ・ 駅の乗降客に対する地域循環交通がない

環境

- ・ 舞子浜緑地の有効活用を図る必要がある
- ・ JR大在駅前に桜を植栽し、まちの活力を創造

3 地域の将来に向けた課題の設定

1、2を踏まえ、大在地域の将来に向けた取組を検討するため、地域の魅力、課題を以下のように整理しました。

大在地域の魅力

○人口増が見込まれる

若い世代が多く居住していることから、子育て相談等をしやすい環境にあり、また子供の人口も多く、地域の活力になっています。

○快適な住環境

国道197号北側は大規模な土地区画整理事業が行われており、商業施設、医療機関等が多く立地しているため快適な住環境にあります。

○都市基盤整備の充実

道路網が整備され、高速道へのアクセスも良好であり、また大小多くの公園が配置され、地域の憩いの場として活用されています。

大在地域の課題

○防災対策への危機管理

災害時における避難所等が人口の割に少ないので、地域全体を通じた危機管理意識の啓発が必要。

○地域コミュニティの希薄化

人口は増加しているが、ご近所のつながりが希薄になっていることから、イベント等を通じた新旧住民による交流の活性化が必要。

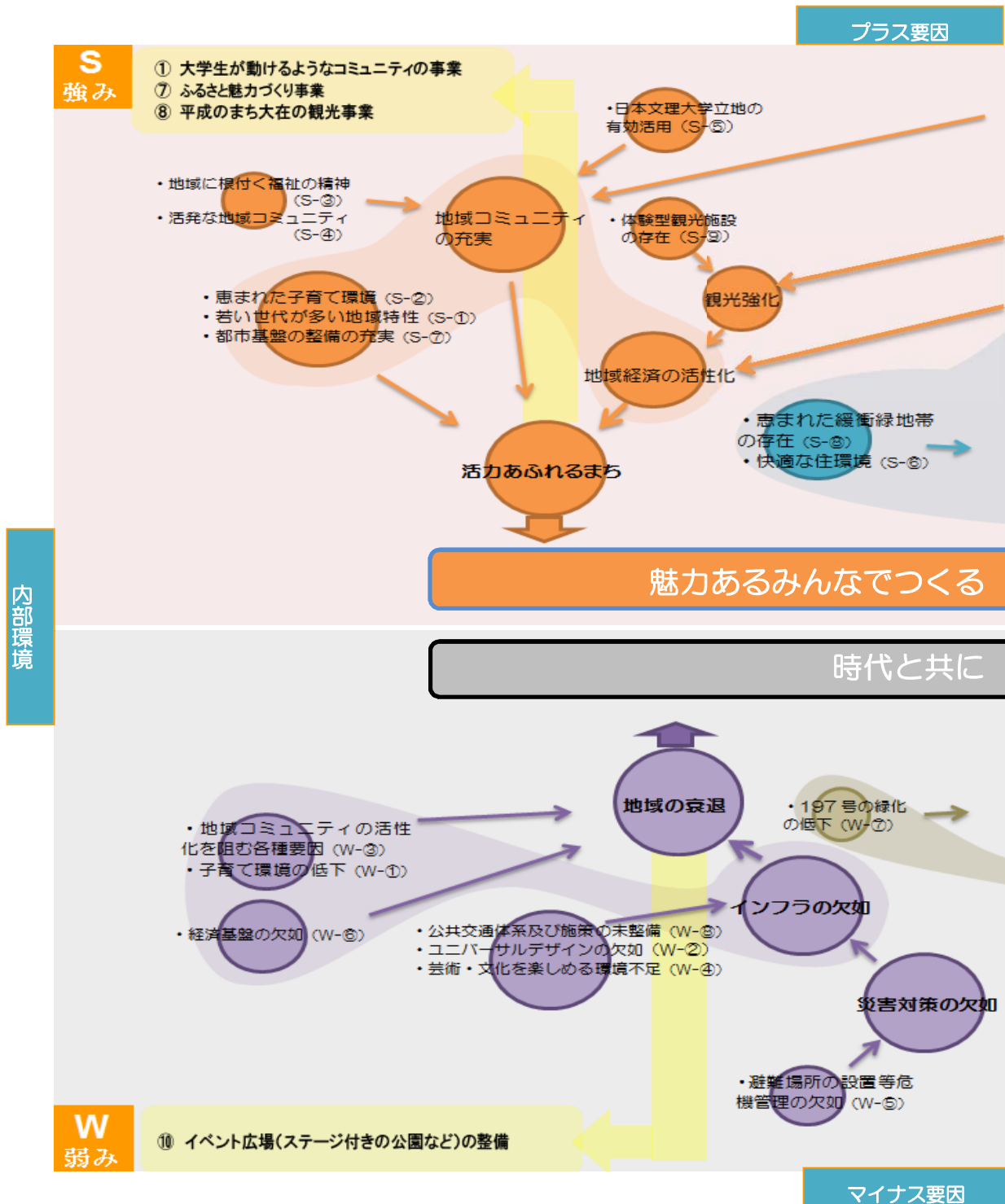
○大学生の活躍

近隣に立地する日本文理大学により大在地域は多数の若年層を抱えているが、それらの学生が活躍する環境が整っていない。

第5章 地域のあるべき姿(将来像)

1 地域の将来に向けて

地域ビジョン会議では以下の図（GAP 図）を用いながら、前章のSWOT 図で整理した意見を、プラス要因とマイナス要因でまとめ、関連づけを行いながら「地域が実現したいと考えるまちの将来像」（まちづくりのコンセプト）を導き出すため、議論を深めてきました。

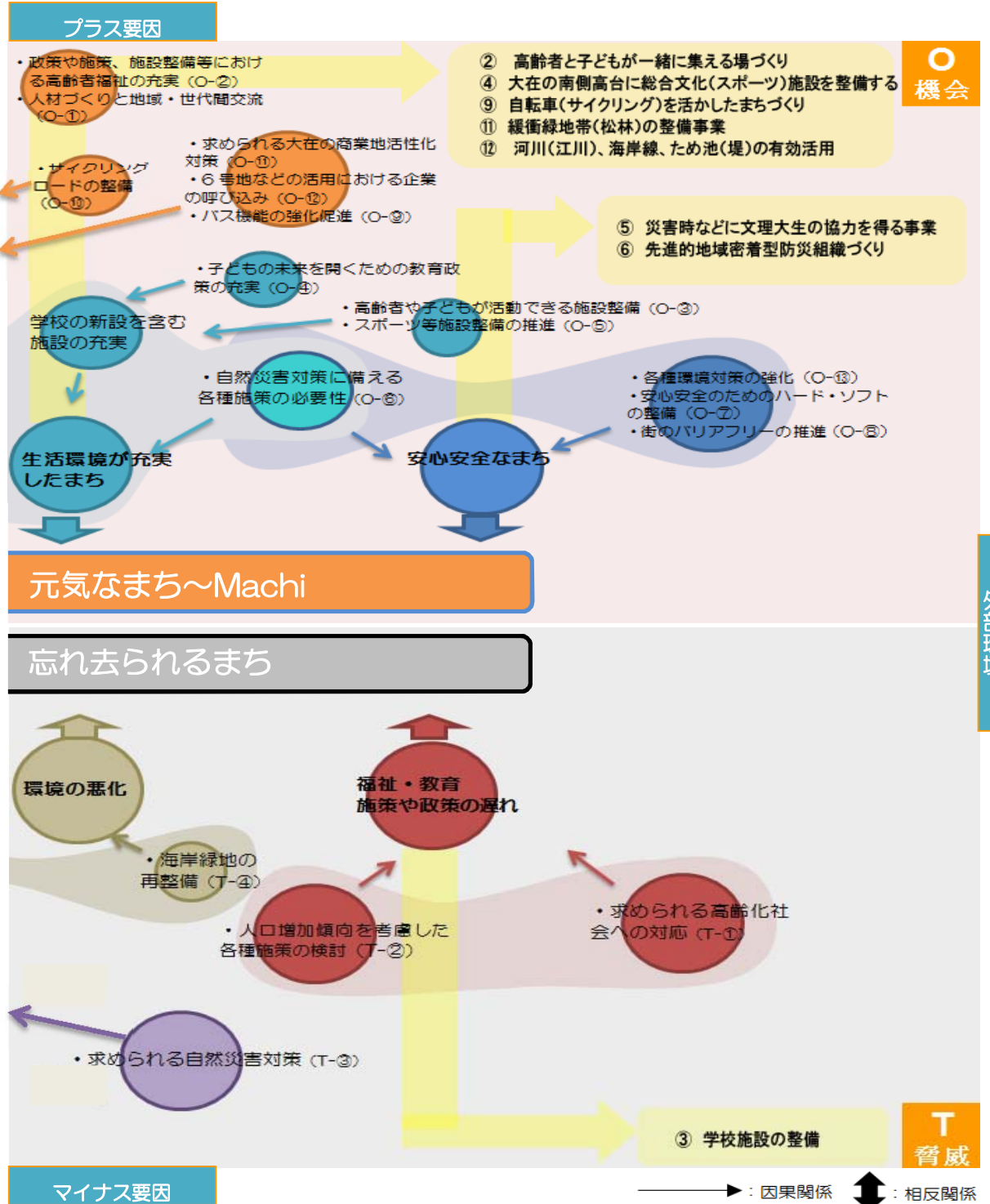


(※) GAP 図

プラス・マイナス両方の要因について、それぞれの因果関係や相反関係を整理したものです。

プラス要因については、「活力あふれるまち」、「生活環境が充実したまち」及び「安心安全なまち」の3つの施策に基づき、実行していくための各種要因について因果関係をもって構成しています。

マイナス要因については、「地域の衰退」や「福祉・教育施策の遅れ」について、それぞれ不安要因との因果関係を図表で表している。個別の意見を表示している位置については、SWOT 分析で整理を行う4つの要因（強み、機会、弱み、脅威）に基づいて配置しています。



2 大在地域の将来像（コンセプト）

今後、少子高齢化がさらに進行し、本市の人口も減少に転じることが予想される中、福祉など市民の身近な施策の充実や地域コミュニティの活性化、効率的な行政運営など諸課題への対応が求められています。

このようななか、「大在地域ビジョン会議」において、地域の魅力の向上や課題解決に向けた取組を検討するなか、地域のさらなる発展のために、地域のあるべき姿（将来像）を以下のとおり決定しました。

<大在地域の将来像（コンセプト）>

魅力あるみんなでつくる元気なまち

～Machi～

将来像への思い

大在地域は、生活環境が整い、安全・安心な魅力のあるまちであり、またスポーツや文化など様々な分野で、高齢者から子どもまで多世代において地域住民が一体となり、元気な大在のまちをつくっていかうという思いで、将来像を決定しました。

第6章 将来像の実現に向けた取組

1 これからのまちづくりに向けた市長への提言

これまで、地域まちづくりビジョン策定の取組を通じ、改めて自らの住む地域を見直すとともに、魅力あふれ、活力に富んだ地域をつくるために、地域と行政が一緒になってどのような取組を進めていくべきか議論を深めてきました。

今後、将来像実現に向けて地域と行政が一緒になって各種取組を進めていくにあたって、特に重点的に取り組む事項について、以下のとおり市長に提言いたします。

市長への提言

提言1 教育を核としたまちづくり（教育・福祉）

子育て世代や隣接する日本文理大学の学生が多く居住していることで、若年層の割合が高く、地域の活力となっている。この若年層を取り込んだ各種事業を構築することで、大在の元気をより推進するまちづくりが必要です。

また、将来の人口増を見据えた教育基盤の充実や子どもと高齢者の居場所づくりなど、安全・安心な環境・仕組みづくりが求められます。

提言2 人を呼び込むふるさとづくり（産業・福祉）

本地域は、今後も人口の増加が見込まれ、若年層の割合も高い地域であるが、同時に地域コミュニティの希薄化が進行しています。

新旧の住民がより住みやすい環境整備のため、地域行事による住民交流の促進や企業誘致、中小企業の成長促進等による生活基盤の確立を行うとともに、大在地域の魅力を向上、発信していく必要があります。

提言3 防災機能の向上と自然環境との共生（防災・都市基盤・環境）

山、川、海に面した地域であることから、地域全体で取り組む防災対策や防災機能を持った公共施設整備など、ソフト・ハード両面において防災機能の強化、推進を図る必要があります。

一方で、その自然特性を生かす事業を推進し、新たな地域資源を創出することで、地域内外の交流を促進するまちづくりを進めていくことを望みます。

2 提言に基づく事業提案の一覧

地域ビジョン会議では、前段の提言に基づき、地域または行政が主体的に取り組むものと、地域と行政が一体となって取り組むものについての検討を行いました。それらの事業提案については下記のとおりです。

提言	事業名	概要
1	①大学生が動けるようなコミュニティ事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生と地域の子どもや大人とのふれあい（コミュニティ）の場をつくる ・地域のお祭りの手伝いや、子どもに歴史を教えたりする活動を行う
1・2	②高齢者と子どもが一緒に集える場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きの家庭が多く、子どもが一人である時間が長いので、地域の子どもと高齢者が集える場所ができればよい
1・3	③学校施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・大分市東部に小学校を建設する ・大在小と大在西小の距離が近くバランスが悪い（横塚の子が通学に1時間かかっている） ・大在東部の子どもの避難場所が必要 ・大在中学校グラウンドを拡充することにより地域の教育環境を充実させる
1・3	④大在の南側高台に総合文化（スポーツ）施設を整備	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所、文化、スポーツ施設が無い ・津波からの避難場所という観点からも大在の南側に整備してはどうか
3	⑤災害時などに文理大生の協力を得る事業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文理大学の学生に自然災害発生時、手助けしてもらえる組織をつくる ・その組織に加入すれば、大学や市の補助などで下宿代を安くする等
3	⑥先進的地域密着型防災組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の生活、防火用水等確保のため、災害用井戸の普及等に取り組みたい ・Jアラートによる情報伝達された際、聞こえる範囲が限定的であるため、より広範囲に周知できるシステム構築

私ができること	地域で出来ること	行政に望むこと
<ul style="list-style-type: none"> • 人を集める • 活動の企画、立案 • 大学祭等への参加 	<ul style="list-style-type: none"> • 大学と自治会の情報交換の場を設置し情報共有を行う • 安全面のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> • 行事を行う際のサポート • 地域がどのように変わったかの把握
<ul style="list-style-type: none"> • 子どもと接する • 人材を見つける • 活動の企画立案 	<ul style="list-style-type: none"> • 場所の提供 • 活動の企画立案 • 広報活動、人材を探す 	<ul style="list-style-type: none"> • 専門家によるアドバイス • 補助金等の援助 • 教育機関等との連携、広報、支援
<ul style="list-style-type: none"> • 協議会設立の働きかけ • 必要性の共有 • データの収集 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校新設のための協議会、期成会の設立 • 地域の協力を得る署名活動 • 行政への要望 • どのような学校にするかのコンセプトをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の要望の把握 • 学校新設の計画をつくる
<ul style="list-style-type: none"> • 施設プランの立案（企画） （体育館、小ホール、備蓄倉庫、多目的グラウンド等を併設） • 先進地の見学研修 	<ul style="list-style-type: none"> • 場所の選定、提供 • 避難経路の確保 	<ul style="list-style-type: none"> • 施設の設計、建設
<ul style="list-style-type: none"> • 留学生と交流を進める会等を通じて日本文理大学との連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> • 自治会長や民生委員と連携し、災害時の支援の依頼を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 避難行動要支援者等の情報を地域において共有
<ul style="list-style-type: none"> • 地域全体の防災士会の設立 • 防災訓練へ家族、近所で参加 • 防災用の井戸の登録を他地域に周知 	<ul style="list-style-type: none"> • 防災用の井戸の調査、登録 • 防災士会の会合を定期的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 消火栓が使えない場合の対策 • 江川に段差をつけ貯水機能を持たせる • 防災情報の伝達システムの充実

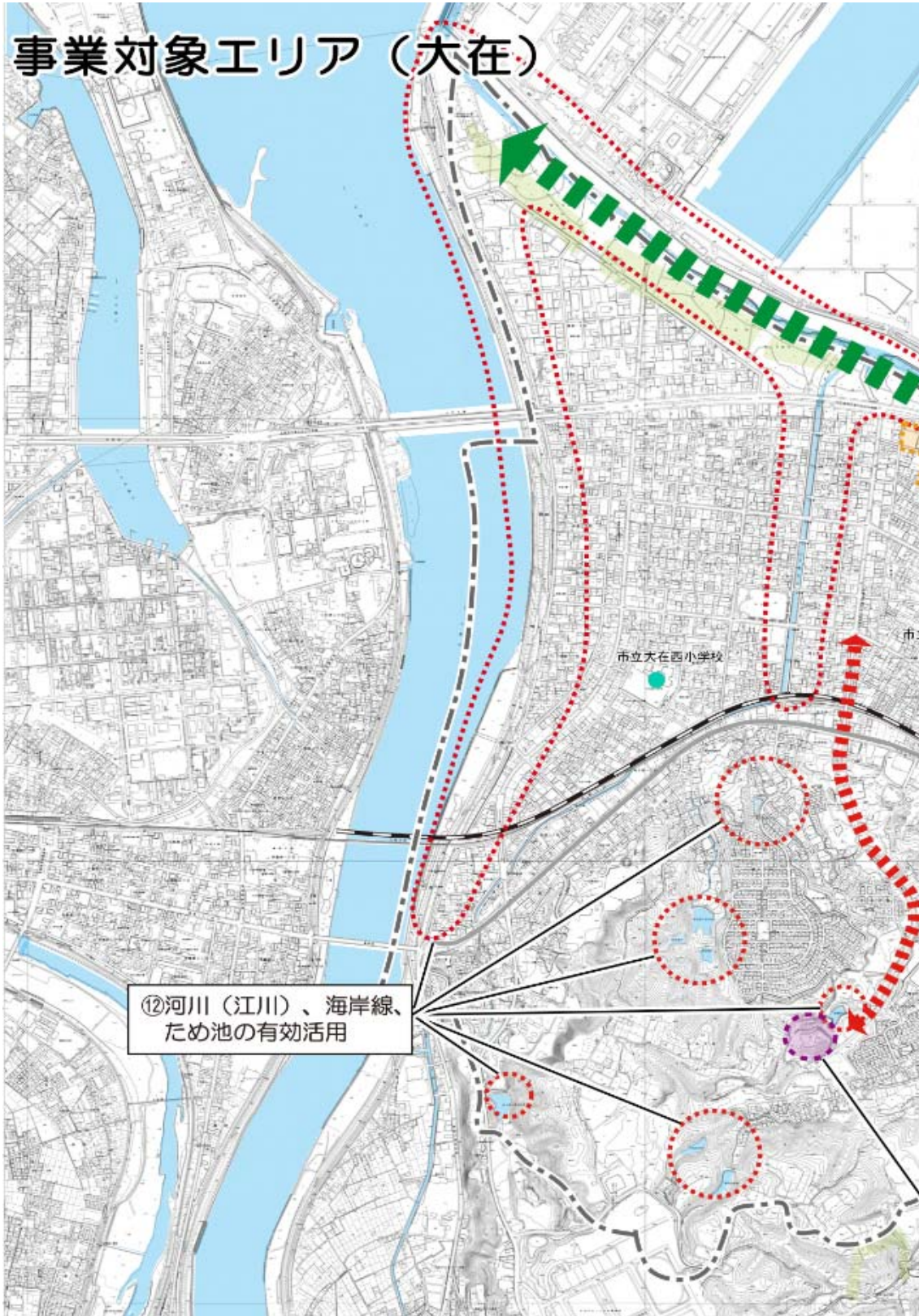
提言	事業名	概要
1・2	⑦ふるさと魅力づくり事業	<p>若者が帰ってきて住み続けるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業誘致により雇用を創出し、生活基盤を支えるまちづくり ・世代間交流（現在 3 世代が交流する行事が無いので、シャトルバス等により広範囲に参加者を募集できるようにする等） ・大在の魅力づくり（県外に出て行った人たちが大在を振り返ることができる SNS 等を用いたツールの検討） ・大在のブランドづくり（商店と協力して大在のお土産づくり等）
2	⑧平成のまち大在の観光事業	<ul style="list-style-type: none"> ・観光事業に力を入れ、大在を「平成のまち」にする ・道の駅を整備したり、バスで南日本造船、三井 E&S マシナリーや文理大学の見学に回れるようにする ・長期スパンで地元の商店が潤う事業の構築 ・地域観光資源のブラッシュアップ、情報発信等を行う
2・3	⑨自転車（サイクリング）を活かしたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・大在商工青年部が春にサイクリングのイベントを実施しているが、このようなイベントを推進したい。ただし、大在のまちなみがサイクリングを行うには合致していない状況 ・イベント実施するための啓発活動やハード整備が必要
3	⑩イベント広場（ステージ付きの公園など）の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・大在には子どもから高齢者までが使える公園が多いが、イベントを実施する時、設備が不足しており不便 ・公園にステージを設置して音楽など様々なイベントに利用できるようにする
3	⑪緩衝緑地帯（松林）の整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・緩衝緑地帯（舞子浜緑地）に大人や子どもがふれあえる場所を整備する ・散策しやすい歩道、松林を活かした遊具の設置等
3	⑫河川（江川）、海岸線、ため池の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・大在の地理的環境を活かして、江川に遊歩道の整備や昔の海岸線が残っている部分を活用し釣り場を整備するなど、親水事業に取り組む ・併せて災害対策に避難場所の整備も必要

私ができること	地域で出来ること	行政に望むこと
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族、近所への助言と協力 ・ 近所等でのイベントの開催 ・ 自ら行動し、下の世代の模範となる ・ 多世代交流ができるイベントや場所の創出 ・ 同じ思いを持った人との協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工業者の相互協力を促進 ・ イベントでのシャトルバス、ふれあいタクシー利用の企画 ・ 伝統行事での交流 ・ 多世代交流ができるイベントや場所の創出 ・ 地域をアピールする作り物等の発信 ・ 広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域とのアイデアの共有 ・ 地域活性化事業の拡大 ・ 企業誘致による生活基盤の確保 ・ 地域の中小企業育成及び融資拡大 ・ 場所の提供 ・ 多世代同居家族への補助制度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光事業の案内役 ・ 造船会社や文理大学等への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の事業主への依頼 ・ 道の駅設立に向けた地域におけるコンセンサス ・ 日本文理大学の学生(留学生含む)を活用した情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大在支所が中心となり活動 ・ 地域の観光事業立ち上げに向けた補助金制度の創設
<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画立案 ・ 協議会の設立 ・ 先進地視察 ・ PR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会の設立 ・ ディレクター計画作成 ・ イベントの開催 ・ 広報活動 ・ 他地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルロードの整備 ・ 行政からの広報 ・ ディレクター派遣等の補助金制度の創設
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他団体との共催を企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなイベントの企画、立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の要望の把握 ・ 大在公園にステージを整備
<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備区域の調査 ・ 具体的な整備内容案 ・ ボランティアへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備後の管理（清掃等） ・ イベントの開催等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊歩道、サイクルロード等の整備（樹木伐採を含む） ・ 一定程度の間隔での遊具等の設置
<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアへ積極参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に親しむ運動を起こす ・ 大在地域を桜で埋める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度、地域の団体等へのボランティア活動を提唱 ・ 自然に親しむことのできる「場」の整備

3 提案事業の整理図（地図）

提案事業について、地図で整理すると以下のとおりとなります。

図一まちづくりの将来像図





資料編

1. 策定経過
2. 大在地域ビジョン会議委員、顧問及び事務局名簿
3. 大分市地域ビジョン会議設置要綱

1 策定経過

年月日	取組内容
平成29年5月9日	大在地域ビジョン会議 準備会議 大在地域ビジョン会議委員の委嘱
6月1日	大在地域ビジョン会議 第1回会議 大在地域ビジョン会議顧問の参画
7月31日	大在地域ビジョン会議 第2回会議
11月16日	大在地域ビジョン会議 第3回会議
平成30年2月14日	大在地域ビジョン会議 第4回会議
5月23日	大在地域ビジョン会議 第5回会議
7月2日	大分市地域まちづくりビジョン報告会 市長へ提言

2 大在地域ビジョン会議委員、顧問及び事務局名簿

○大在地域ビジョン会議委員名簿

※敬称略

役職	氏名	所属等
会長	上野 榮一	大在地区自治委員連絡協議会会長
副会長	工藤 健一	大在地区自治委員連絡協議会副会長
	姫野 清高	株式会社桃太郎海苔 代表取締役社長
	後藤 芳正	大分商工会議所大在支所 支所長
	梅田 勝美	大在地区社会福祉協議会 会長
	首藤 正幸	大在地区民生委員・児童委員協議会 会長
	廣田 稔	大在地区老人クラブ連合会 会長
	加藤 康子	大在地区婦人会 会長
	姫野 恭志	大在地区ボランティア会 会長
	長野 辰生	大在地域振興協同組合 理事長
	田中 剛	大分商工会議所大在商工青年部 会長
	渡邊 智子	大在中学校 PTA 副会長
	下地 奈結花	日本文理大学 学生

○大在地域ビジョン会議 顧問 2名

※敬称略

役職	氏名	所属等
	松木 大輔	大分市議会議員
	国宗 浩	大分市議会議員

○大在地域ビジョン会議 事務局

役職	氏名	所属等
事務局長	中原 譲二	市民部 大在支所 支所長
事務局次長	板井 敬治	市民部 大在公民館 館長
	狭間 大介	市民部 大在支所 参事
	川本 秀樹	市民部 大在支所 主査
	加藤 公男	都市計画部 開発建築指導課 専門員
	浜田 憲彦	土木建築部 道路維持課 参事補
	中川 宏	商工労働観光部 商工労政課 主査
	森中 剛	農林水産部 林業水産課 主査
	金子 明弘	企画部 企画課 参事補
	山香 仁	企画部 企画課 主事

※構成員の所属は、選任時のもの

3 大分市地域ビジョン会議設置要綱

（設置）

第1条 市民が思い描く地域の未来像であり、地域の特性を活かしたまちづくりの方向性についての市民の提言となる地域まちづくりビジョンを策定するため、地域ごとに地域ビジョン会議（以下「ビジョン会議」という。）を設置する。

（名称及び設置地域）

第2条 ビジョン会議の名称及び設置地域は、別表のとおりとする。

（所掌事項）

第3条 ビジョン会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1)地域まちづくりビジョンの策定に関すること。
- (2)地域まちづくりビジョンの市長への報告に関すること。
- (3)その他地域まちづくりビジョンの策定に関し市長が必要と認める事項

（組織）

第4条 ビジョン会議の委員は、25人以内とし、次に掲げる者のうちから市長が参画依頼する。

- (1)各種団体の代表者
- (2)校区会長
- (3)学識経験を有する者
- (4)その他市長が必要と認める者

（参画依頼の期間）

第5条 参画依頼の期間は、参画依頼の日から第3条に掲げる所掌事項が終了する日までとする。

（会長及び副会長）

第6条 ビジョン会議に会長及び副会長1人を置き、委員の互選により選出する。

- 2 会長は、ビジョン会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第7条 ビジョン会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長がその議長

となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 会長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。
- 4 会議は、原則公開とする。ただし、会長が必要と認める場合は、会議に諮って、これを公開しないことができる。

(部会)

第8条 ビジョン会議は、地域内における特定の地区及び事項について調査、研究等を行うための部会を設置することができる。

- 2 部会は、会長の指名した委員を部会員として組織する。
- 3 部会に部会長を置き、会長の指名する委員をもって充てる。

(顧問)

第9条 ビジョン会議ごとに顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、市議会議員とする。
- 3 顧問は、ビジョン会議からの要請に基づき、市長が参画を依頼する。
- 4 顧問は、ビジョン会議に対し助言を行うことができる。

(報償金等)

第10条 委員に対する報償金等は、予算の範囲内で、市長が決定し、これを支払うことができる。

(事務局)

第11条 ビジョン会議の庶務を処理するため、ビジョン会議ごとに事務局を置く。

- 2 事務局の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

(その他)

第12条 この要綱に定めるもののほか、ビジョン会議の運営について必要な事項は、会長がビジョン会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成29年4月17日から施行する。

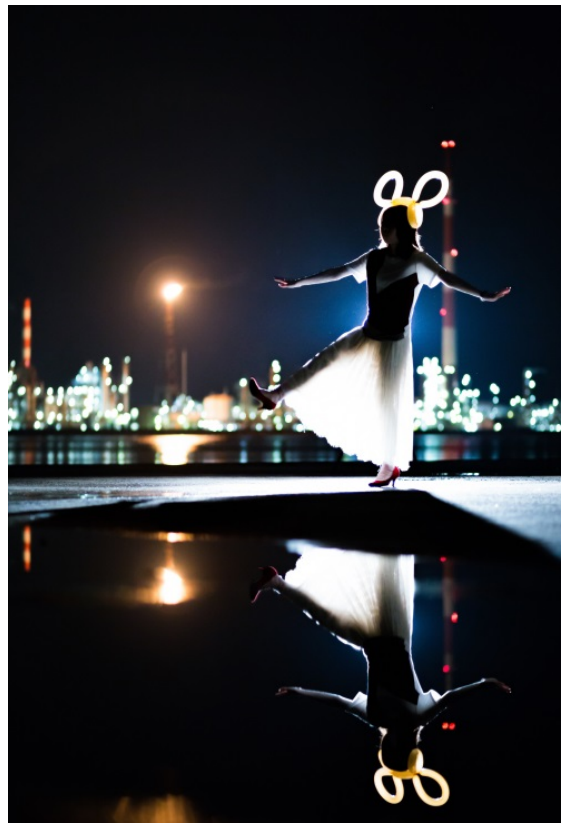
(この要綱の失効)

- 2 この要綱は、第3条に掲げる所掌事項が終了する日限り、その効力を失う。

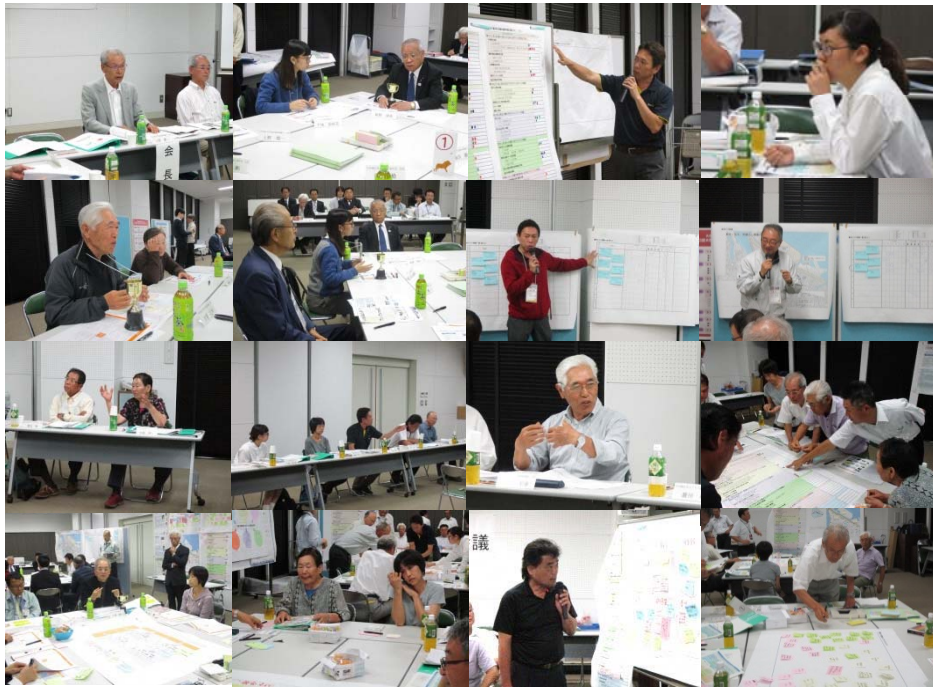
別表（第2条関係）

名 称	設置地域
大分中央地域ビジョン会議	大分中央公民館の所管区域
大分西部地域ビジョン会議	大分西部公民館の所管区域
大分南部地域ビジョン会議	大分南部公民館の所管区域
南大分地域ビジョン会議	南大分公民館の所管区域
大分東部地域ビジョン会議	大分東部公民館の所管区域
鶴崎地域ビジョン会議	鶴崎支所の所管区域
大南地域ビジョン会議	大南支所の所管区域
植田地域ビジョン会議	植田支所の所管区域
大在地域ビジョン会議	大在支所の所管区域
坂ノ市地域ビジョン会議	坂ノ市支所の所管区域
佐賀関地域ビジョン会議	佐賀関支所の所管区域
野津原地域ビジョン会議	野津原支所の所管区域
明野地域ビジョン会議	明野支所の所管区域

（備考） 公民館の所管区域のうち、支所の所管区域は除くものとする。



【OITA PRIDE!】フォトコンテスト 入賞作品



大在地区ビジョン会議